

授業・単元づくり編 「単元指導計画の立て方」

独立行政法人教職員支援機構

チーフ研修プロデューサー 新名主 洋一



独立行政法人教職員支援機構

単元指導計画とは

めざす子供像 = 単元の目標



- 内容をどのような順序で指導していくか。
- どの程度、時間をかけて指導していくか。
- どのような方法で指導するか。
- どこで、何を評価するのか。

ねらいが明確な授業の実施 = 明確な授業準備
(≡業務改善)

単元指導計画 作成の手順

- 1 年間指導計画をもとに、単元の指導事項を確認
- 2 該当する学習指導要領（解説）で具体的な内容や系統性を確認
- 3 教材研究
 - ・教材について
 - ・児童の実態について
- 4 単元の目標、評価規準を設定

単元の目標	評価規準
知識及び技能	知識・技能
思考力・判断力・表現力等	思考・判断・表現
学びに向かう力・人間性等	主体的に学習に取り組む態度

- 5 単元指導計画を作成

単元の目標の設定

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか。

学びに向かう力・人間性等

単元の目標

知識・技能

何を理解しているか。
何ができるか。

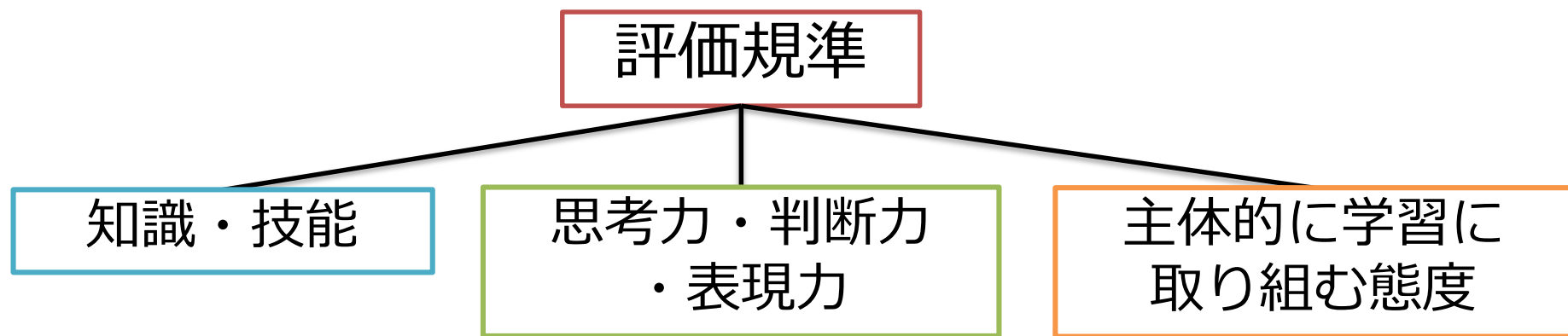
思考力・判断力・表現力等

理解していること・できる
ことをどう使うか。

(例) 社会科「事故や事件からくらしを守る」

事故や事件から地域の人々の安全を守る活動に従事する人々の工夫や努力を知るとともに、関係諸機関と緊急事態に備えた連絡・活動の仕組みについて理解し、社会の一員として、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。

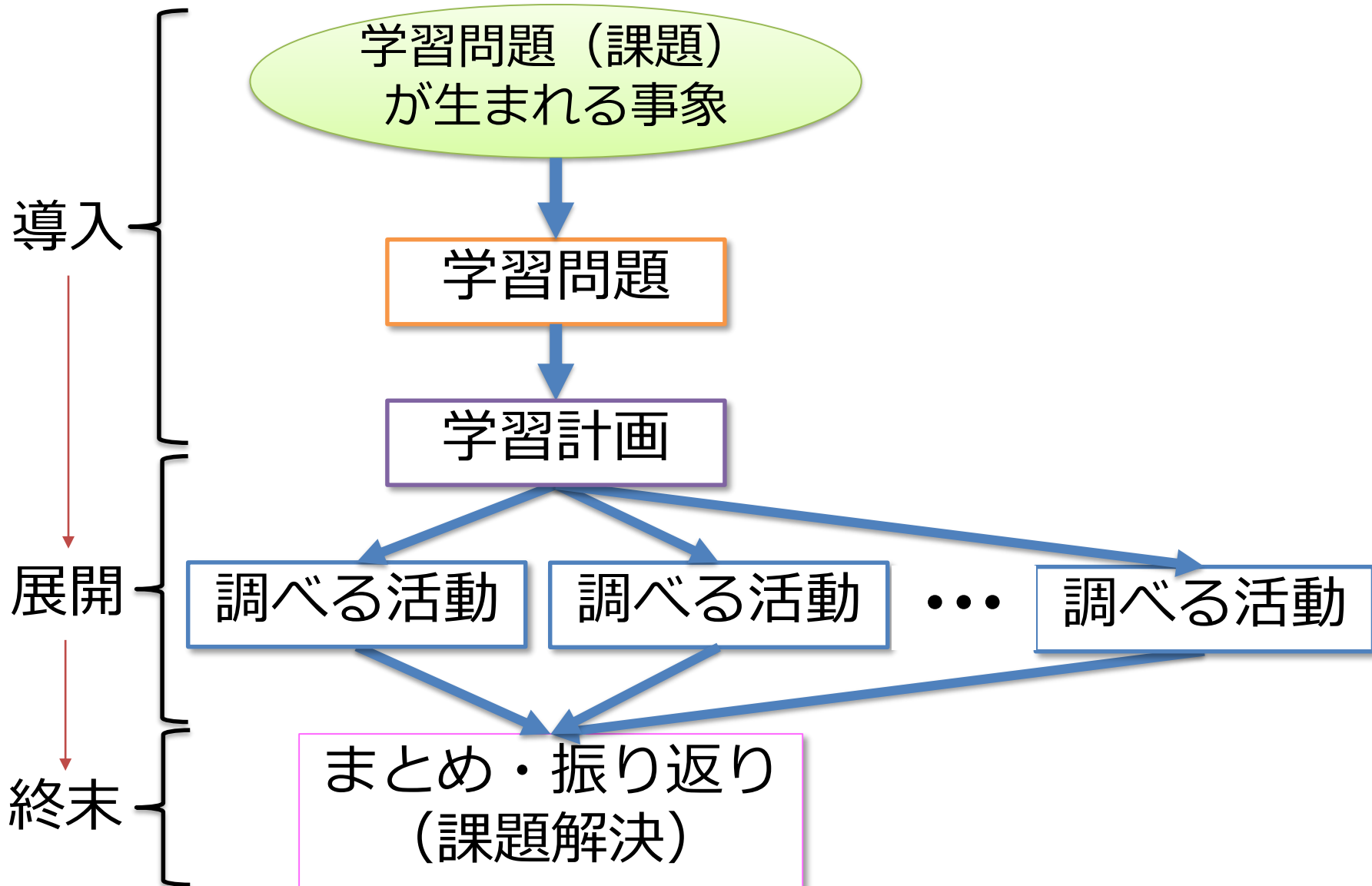
評価規準の設定



(例) 社会科「事故や事件からくらしを守る」

知識・技能	思考力・判断力 ・表現力等	主体的に学習に 取り組む態度
施設・設備の配置、警察署による緊急時への備えや対応について見学・調査したり資料で調べたりして、関係機関が地域の人々と協力して事故などの防止に努めていることを理解している。	連携・協力している関係機関の働きを比較・分類、または結び付けて、相互の関連や従事する人々の働きを考え、適切に表現している。	学習したことをもとに、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとしている。

単元指導計画の流れ



導入

- ・ 学習への意欲
- ・ 学習の見通し

学習問題が
生まれる事象

児童の
疑問

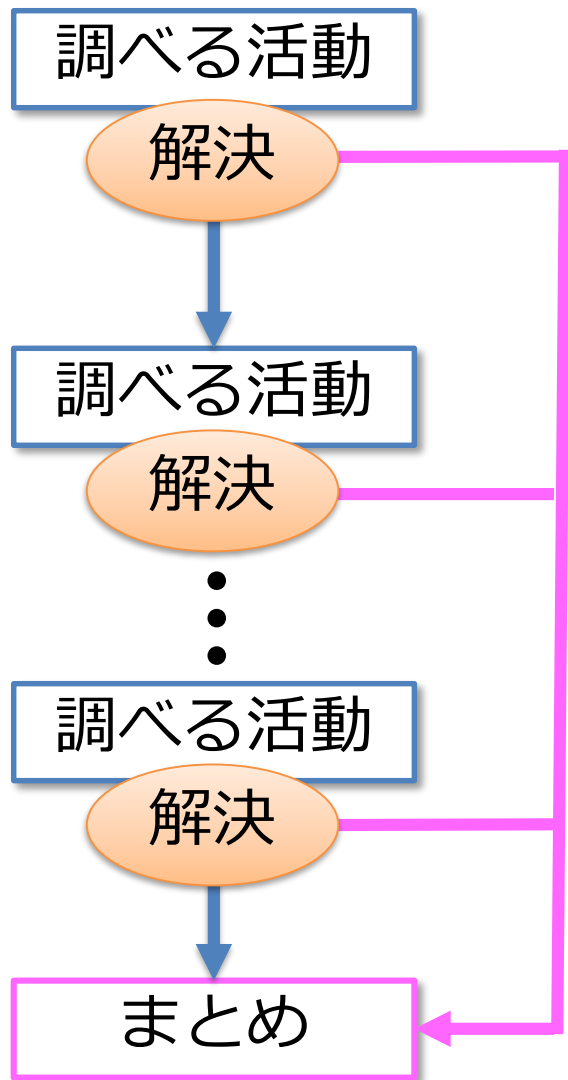
学習問題

学習計画

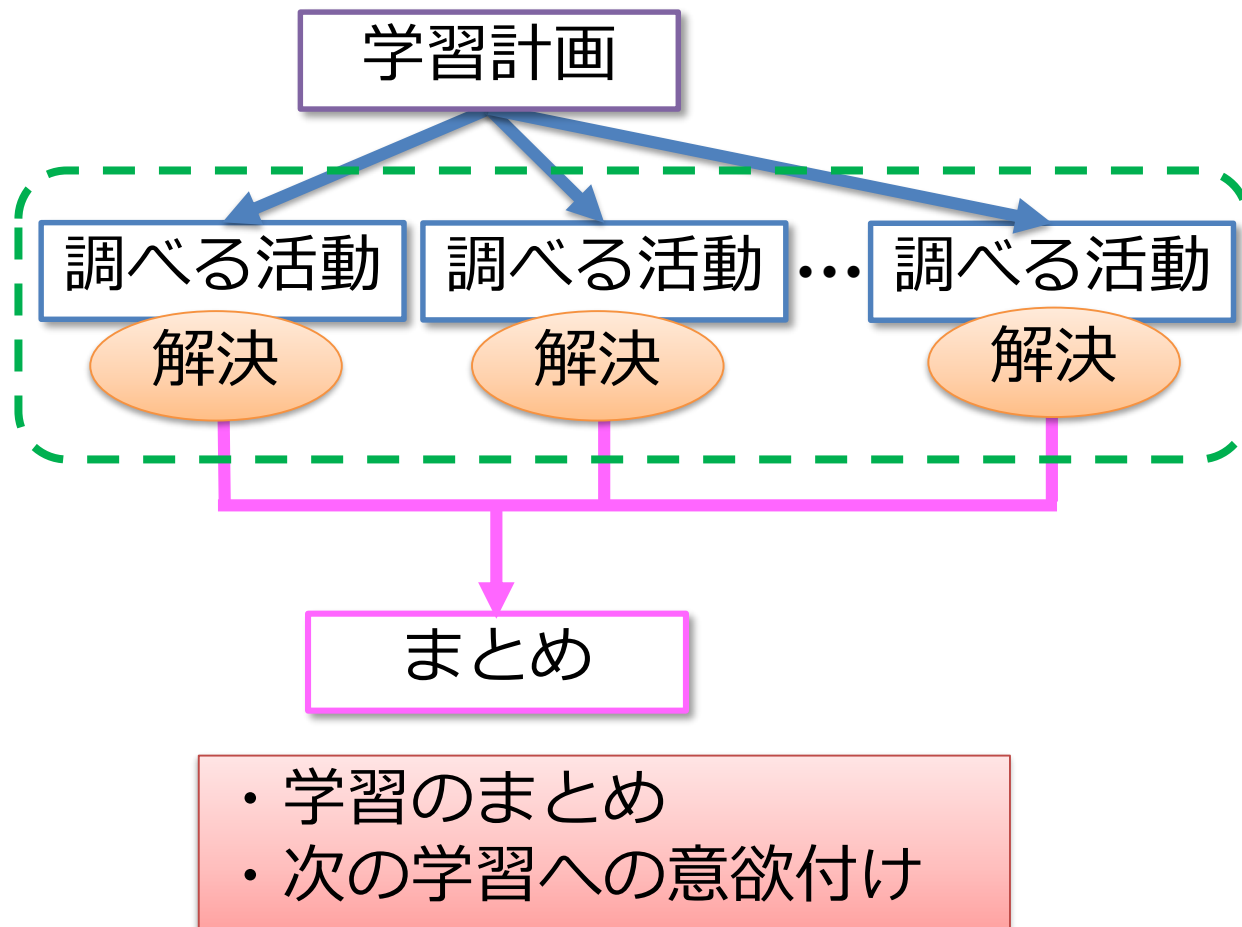
教科 単元	社会科（6年） 「天皇中心の国づ くり」	理科（4年） 「電気のはたら き」
事象	奈良の大仏の実物 大のパーツづくり	電池とモーターで 走る車作り
児童の 疑問	<ul style="list-style-type: none">・ 聖武天皇はどう してこんな大きな 仏像を作らせたん だろう？・ 聖武天皇はもの すごい力をもっ たのでは？	<ul style="list-style-type: none">・ どうしてつなぎ 方を変えると、車 が後ろに進むのだ ろう？・ 電池のつなぎ方 をいろいろ試して みたいな。
学習 問題	聖武天皇は、なぜ こんなに大きな力 をもつようになった のだろう。	電池とモーターは どのような関係が あるのだろう。

展開・終末

【課題を一つずつ解決】



【複数の課題に一斉に取り組む】



単元指導計画の見直し①

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
つかむ・見通す	<p>1 事故や事件の様子や発生件数のグラフを見て、学習問題をつくりあげる。</p> <p>警察は、事故や事件から私たちをどのように守っているのだろう。また、なぜ事故や事件が減っているのだろう。</p> <p>【思・判・表】 事故や事件から人々の安全を守る諸活動に関心をもち、安全を守るための体制や施設・設備などから学習問題について考えている。</p> <p>2 学習問題について予想し、学習計画を立てる。</p> <p>◎ 事故や事件が起こった際の対応について ◎ 事故や事件から守るための取組について</p> <p>◎ 安全を守るための施設について ◎ 県や市、地域の取組について</p> <p>事故や事件の発生件数、またその推移のグラフから、子どもたちの疑問や予想をもとに学習計画を立てる。</p>	1
	<p>3 学習計画にそって、資料をもとに個人やグループで調べ、全体で話し合う。(ジグソー学習)</p> <p>(1) 追究したい課題についてそれぞれ調べ、グループで交流する。(見学、インタビュー、各種資料)</p> <p>(2) 調べたことを発表し、全体で話し合う。</p> <p>【知・技】 事故や事件から地域の人々の安全を守るための施設・設備、地域の人々の協力の様子などを観点に基づいて調査・見学し、安全な生活のための活動について必要な情報を集めている。</p> <p>【思・判・表】 警察など関係機関の働きや地域の人々の工夫や努力によって地域の人々の安全な生活が守られていることについて考え、考えたことを適切に表現している。</p> <p>見学活動やインタビューを取り入れ、事故や事件からくらしを守る仕事に携わる人々の工夫や苦労について実感をもち、捉えられるようにする。</p>	6 1
まとめる・いかす	<p>4 調べたことをもとに、学習問題についてまとめ。</p> <p>安全を守るため、様々な機関が連携して、事故や事件からわたしたちの暮らしを守るための活動が行われているから、事故や事件が減っている。</p> <p>【知・技】 事故や事件から地域の人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を理解している。</p> <p>5 安全を守るために自分でできることを考え、「私の安全宣言」をつくりあげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自転車の乗り方について 横断歩道の渡り方について 安全な遊び方について 地域の危険箇所について <p>【主体的に学習に取り組む態度】 これまで学習したことをもとに、安全を守るために自分ができることについて考える。</p> <p>学習したことを基に根拠を明らかにさせ、安全を守るためにこれからの生活の中で自分ができることについて考えさせる。</p>	1 (本時) 1

子供の
思考の流れ

目標は
達成されるか。

単元指導計画の見直し②

主体的・対話的で深い学び

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- ・ 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



主体的な学び
対話的な学び
深い学び

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広げる
- ・ あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- ・ 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

【例】

- ・ 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- ・ 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- ・ 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく



学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・表現力
等の育成

単元指導計画の見直し③

言語活動の充実

<各教科等における言語活動の充実>



国語科：基本的な国語の力を定着させたり，言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに，発達の段階に応じて，記録，要約，説明，論述といった言語活動を行う能力を培う

単元指導計画の見直し④

ICTの活用

A 一斉学習

挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。

▶A1：教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

B 個別学習

デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進捗で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。

▶B1：個に応じる学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習

▶B2：調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

▶B3：思考を深める学習



シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

▶B4：表現・制作



マルチメディアを用いた資料、作品の制作

▶B5：家庭学習



情報端末の持ち帰りによる家庭学習

C 協働学習

タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

▶C1：発表や話し合い



グループや学級全体での発表・話し合い

▶C2：協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

▶C3：協働制作



グループでの分担、協働による作品の制作

▶C4：学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との交流授業

おわりに

